

下山地域会議 諮問答申について

1 諮問

(1) 条例

豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例
(令和3年12月28日条例第38号 略称「山村条例」)

(2) 概要

- ・条例第6条に定める山村住民の役割について、地区の住民や地域として、何を必要があるか、そのための課題は何かあり、具体的にどのように取り組むべきかなど、以上の視点を踏まえて地域で実施できる取組や方策等についての諮問である。
- ・山村条例の理念の実現のために向けた今後の取組の参考にするため、諮問を行う。

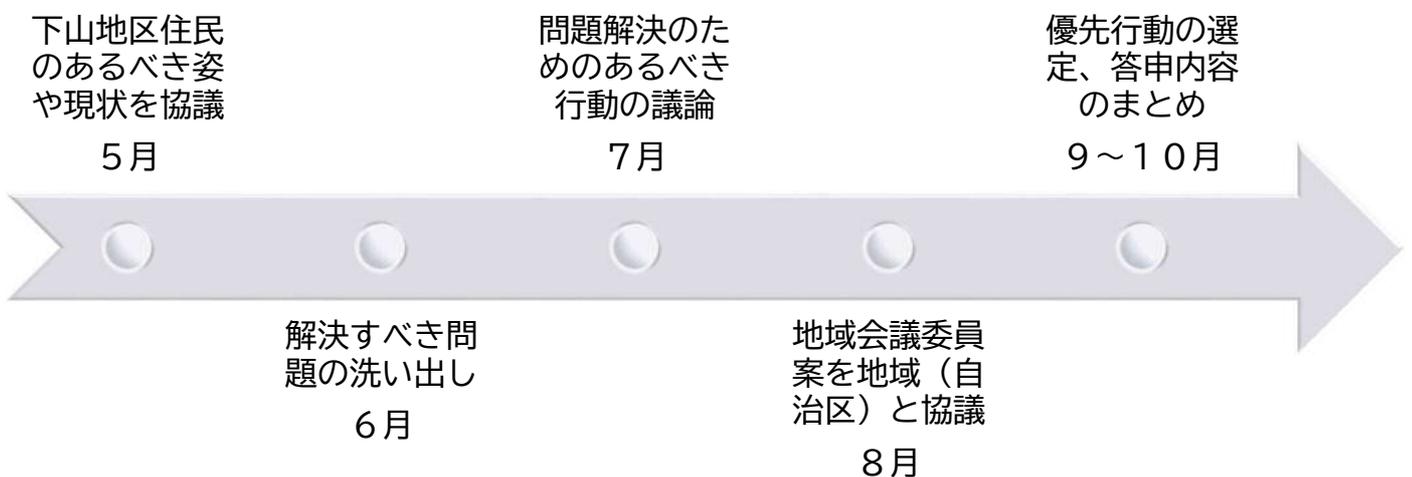
条例第6条（山村住民の役割）引用

- 1 地域に愛着と誇りを持ち、山村の価値を次の世代につなぐよう努める
- 2 空き家、農地、森林が地域の共有財産であることを認識し、放置しないよう努める
- 3 都市と山村の多様な関わり方を認め、山村地域へ移住する人や関わる人を受け入れるように努める

2 答申

- (1) 役割1…条例第6条1項「地域に愛着と誇りを持ち、山村の価値を次の世代につなぐよう努める」について答申。
- (2) 役割2…条例第6条2項「空き家、農地、森林が地域の共有財産であることを認識し、放置しないよう努める」について答申。
- (3) 役割3…条例第6条3項「都市と山村の多様な関わり方を認め、山村地域へ移住する人や関わる人を受け入れるように努める」について答申。

3 検討経過



役割1

1 役割

地域に愛着と誇りを持ち、山村の価値を次の世代につなげていく

2 戦略（目指すあるべき住民の姿）

地域住民が下山の魅力を見直し、愛着と誇りを持ち続けられる取組を再確認して行動している姿。

3 目標（目指す住民の行動）

(1) 魅力を発見する	住民それぞれが下山地区の魅力や地域情報を知り、その魅力などについて家族に伝えたり話し合ったりしている。
(2) 地区の歴史や伝統をつなぐ	先人から受け継いだ地域の歴史や伝統、祭礼、芸能などの継承に努めるとともに、郷土資料として将来に残すよう取り組んでいる。
(3) 地区の自然や景観を守る	所有者個人だけに任せるのではなく、下山地区の原風景である美しい田畑や山林を地域全体で守っている。

4 具体的な手段の例

(1) 魅力を発見する

- ア 地域のことをよく知る方や特技を持った方の経験や技術を伝える機会を創出する。
- イ 地域ごとの行事を下山全体にPRしたり、参加者を募ったりするなど、下山の他自治区の住民との交流や話す機会をつくる。

(2) 地区の歴史や伝統をつなぐ

- ア 地域ごとの祭事、伝統芸能の資料や映像等をまとめて広く公表するなど、やれる人がいるうちに形・映像に残す。
- イ 学校の授業で取り上げるほか、祭事や伝統芸能実施時には広く参加者を募り、継承するために必要な人とのつながりを作る。

(3) 地区の自然や景観を守る

- ア 地域で環境整備したところを周知することで、地域住民の維持管理の機運を醸成する。
- イ 地域による定期的な草刈りを行っていきるとともに、地区外の応援やボランティアを継続的に依頼する。

役割2

1 役割

空き家、農地、森林が地域の共有財産であることを認識し、放置しないようにする

2 戦略（目指すあるべき住民の姿）

農地、森林を都市から来た人も、山村住民も「いいところ」だとおもい、有効活用している姿。

3 目標（目指す住民の行動）

(1) 農地	所有する農地をいつまでも大切に管理していくため、家族だけでなく地区内外の方から管理者や後継者を見つけ、引き継いでいる。
(2) 森林	地域の森林を適切に管理して有効活用するため、その周辺の住民が積極的に森づくり団地化を推進するとともに、間伐後の管理や活用の取組を行っている。
(3) 共有財産全般	農地や森林などは、地域の価値を守る大切な共有財産であることを認識し、管理や活用を、個人任せにすることなく地域ぐるみで取り組んでいる。

4 具体的な手段の例

(1) 農地

- ア 地域で農業組合等のグループを作って機器や作業を共有しながら耕作する。
- イ 都市住民巻き込みのため、農地バンク活用推進や土日祝日の農業研修会を行う。
 - (ア) 農地の管理を地域で考えていく必要があることを地域に周知する。
 - (イ) 耕作放棄農地の調査を行い、農地バンク制度を利用したり、しもやま版農地バンク制度をつくり、利用希望者へ紹介する。(モデル地区で取り組む)
 - (ウ) 農ライフ創生センターのカバーしていない土日祝日の農業研修会を行う。
- ウ コメから木や花、果樹などより収益性が高く手間のかからない作物への変更を行う。

(2) 森林

- ア 森づくり団地化を進め、間伐や林道づくりを進める。
 - (ア) 地域で森づくり団地化推進担当者を決め、所有者への趣旨や制度説明を行う。
 - (イ) 地区内外の力を借りて林道の環境整備を行い、良好な林道づくりを進める。
- イ 2回目の間伐をはじめとした初回間伐以降の森づくりを進める。

(3) 共有財産全般

- ア 転出した所有者の転出先を知り、対応策を練る。
- イ 元気な高齢者の力を共有財産として、集落を盛り上げる。

役割3

1 役割

都市と山村の多様な関わり方を認め、山村地域へ移住する人や関わる人を受け入れる

2 戦略（目指すあるべき住民の姿）

私たちは、移住する人や関わる人を一括りにせず、地域住民がそれぞれ移住する人や関わる人を受け入れる体制づくりを進めている。

3 目標（目指す住民の行動）

(1) 住み続ける（定住）	組単位の中で転入者を歓迎し、地域でよそよそしさを感じさせないようにしている。
(2) 移り住む（移住）	移住希望者に向けての情報発信、「仕事」や「子育て」の情報を適時に適切な場所へ発信している。
(3) 外の人と関わる（関係人口）	トヨタテクニカルセンターの関係者も含め、下山地区に関わる地区外の人が多い。このような人たちの力を借りる際に、対応する人や物を用意している。

4 具体的な手段の例

(1) 住み続ける（定住）

- ア 初期投資がかかるハード整備を補助金などで行い、整備したハード設備の活用は下山地区全体で行い、下山地区内のつながりを作る。
- イ 下山地区内において、自治区内の組単位同士で交流してつながりを作る。

(2) 移り住む（移住）

- ア 移住希望者向けにワンストップ窓口（総合窓口）を整備し、情報を得られるようにする。
- イ 短期アルバイトの求人情報（農業・司書など）をまとめて、商工会などしかるべき地域団体に提供し、集約・発信する。

(3) 外の人と関わる（関係人口）

- ア 下山地区に来る人向けに、一覧できる体験メニューを整備する。（例：とよたまちさとミライ塾しもやま）
- イ 関係人口を受け入れるためのコーディネーター人材を育てる。